

パナソニック エナジーとマツダ、 車載用円筒形リチウムイオン電池の供給に関する 中長期的パートナーシップの構築に向けて協議を開始

パナソニック エナジー株式会社(大阪府守口市 社長執行役員:只信 一生 以下、パナソニック エナジー)とマツダ株式会社(広島県安芸郡府中町 社長:丸本 明 以下、マツダ)は、市場が急拡大するバッテリーEV ならびに車載用電池への需要に対応するために、このほど、中長期的パートナーシップの構築に向けて検討することを合意しました。

今後、パナソニック エナジーは日本と北米の工場で製造した車載用円筒形リチウムイオン電池をマツダに供給し、マツダはパナソニック エナジーから調達した電池を2020年代後半に導入する予定のバッテリーEV に搭載することを視野に入れて、具体的な協議を開始します。

パナソニック エナジーの只信 一生(ただのぶ かずお)社長執行役員は「自動車業界での電動化が急速に進む中、マツダのような技術をリードする自動車メーカーとの協業は、『幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現』という当社ミッションの達成に向けた大きな一歩につながります。当社は、優れた技術と豊富な経験によりリチウムイオン電池業界の成長をけん引し、ゼロエミッションの実現に向けた取り組みをさらに加速していきます」と述べています。

マツダの毛籠 勝弘(もろ まさひろ)取締役専務執行役員は「マツダは電動化の取り組みを、規制動向や消費者ニーズ等の変化に柔軟に対応するべく、3つのフェーズに分けてパートナー企業の皆さまと進めており、車載用リチウムイオン電池の先駆者として高品質な製品を展開するパナソニック エナジーと取り組めることをうれしく思います。今後も、電動化戦略をはじめとするさまざまな取り組みを通じて、地球温暖化の抑制に貢献していきます」と語りました。



パナソニック エナジーが製造する車載用円筒形リチウムイオン電池

パナソニックグループとマツダは、2012年からマツダが日本でリース販売した「デミオ EV」にパナソニック製の電池を搭載するなど、長期にわたって良好な関係を築いています。

本パートナーシップの構築を通じて、パナソニック エナジーとマツダは、自動車産業と電池産業の発展および地域の雇用維持や人材育成などの社会課題の解決にも貢献していきます。

以上